1F 未来を展望するゾーン
(子ども・プロセス展示室)

未来を担う子どもたちが、積極的に平和を愛する心を育むための子ども・プロセス展示室は、大きく三つにわかれています。「ぬちどぅ宝・せかいの子どもたち！」は、さまざまな国の18人の子どもたちに学校のようす、お友だち、遊びのことなどを聞きました。「いませかいで何が」は、やまない戦争・紛争、いじめなどの人権問題、むしばまれる地球環境など、世界的な、あるいは、身近な問題を取り上げ、その原因、どうしたら解決できるのかなどを考えてもらうコーナーです。「わらびなー(庭)」は、展示物にふれながら、遊びを通して共通性を発見し、違いを認め合うきっかけづくりをします。

親子や友人同士で平和について語り合える場がここにあります。

世界はひとつ！
18人の子どもたちが来館者を笑顔で迎えてくれます。

「いませかいで何が」のコーナーのひとつ、「なくならない貧困」

2F 歴史を体験するゾーン

プロローグ

かつて琉球の先人は
平和をこよなく愛する民として
海を渡り
アジア諸国と交易を結んだ
海は
豊かな生命の源として
平和と友好の掛け橋として
いまなお
人々の心に息づいている

第1展示室 沖縄戦への道

明治政府は、琉球王府に対して、武力を背景にした『琉球処分』を断行した。それにともない沖縄県は、皇民化政策によって急速に日本化を進めた。

一方、近代化を急ぐ日本は、富国強兵策により、軍備を拡張し、近隣諸国への侵出を企てた。満州事変、日中戦争、アジア・太平洋戦争へと拡大し、沖縄は、15年戦争の最後の決戦場となった。

◀明治・大正・昭和初期の沖縄の人たちの表情と町や村の光景が三面のモニター画面をとおして展開されます。

沖縄県民を根こそぎ動▶員して行われた飛行場建設や陣地構築のミニチュア模型。

第2展示室 住民の見た沖縄戦 鉄の暴風

沖縄戦において、日米両軍は、総力をあげて、死闘をくり広げた。米軍は物量作戦によって、空襲や艦砲射撃を無差別に加え、おびただしい数の砲弾を打ち込んだ。

この「鉄の暴風」は、およそ3ヶ月に及び、沖縄の風景を一変させ、軍民20数万の死者を出す凄まじさであった。

◀沖縄戦の戦闘経緯を光とレーザー光線を使って立体地図の上で展開し、地域別の戦闘状況を小型モニターで紹介します。

沖縄戦全体の戦闘経緯▶を大型モニターで映し出します。

▲立体地図の周りは破壊された民家や建物が再現されています。